

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年5月）

《今月のトピックス》

- 梅毒は幅広い年齢層で患者が多く発生しています。
- 感染性胃腸炎が増加傾向です。
- 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの発生状況に関しては、今後も注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

＜5月期に報告された全数把握疾患＞

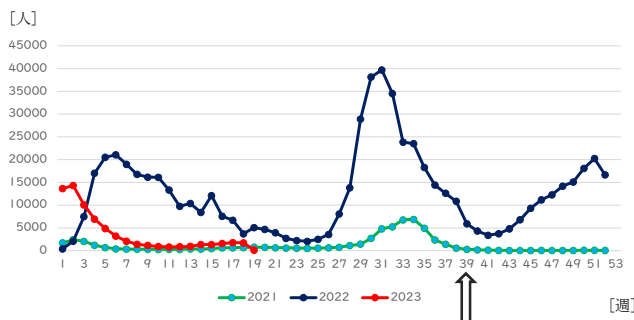
腸管出血性大腸菌感染症	6件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
アメーバ赤痢	2件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	2件	梅毒	22件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	播種性クリプトコックス症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件	百日咳	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～40歳代で、血清群O157が3件、O26が2件、O103が1件です。経口感染と推定される報告が2件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- E型肝炎**:50歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等は不明の報告が2件ありました。
- アメーバ赤痢**:30歳代～40歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性脳炎**:60歳代～70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:90歳代で、血清群A群です。創傷感染と推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～40歳代で、性的接触(同性間2件、詳細不明1件)と推定される報告が3件ありました。
- ジアルジア症**:40歳代で、経口感染と推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間16件、同性間4件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 播種性クリプトコックス症**:70歳代で、感染経路等不明です。
- 百日咳**:10歳未満(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

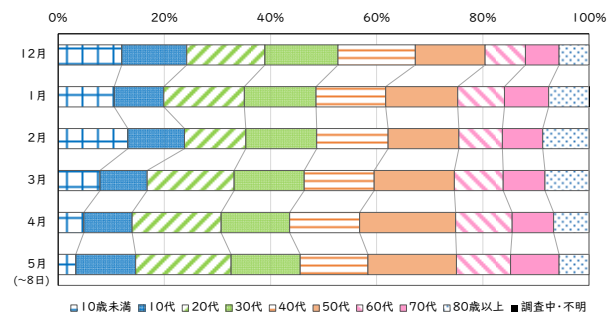
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース) <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/> (5月8日発表分まで)

2023年第17週～第19週(5月8日発表分のみ)に横浜市から報道発表がありました症例は3,632件でした。

2023年5月8日以降は定点報告となり、19週2.11、20週3.06です。



1 報告数の推移



2 年齢層別患者割合

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)

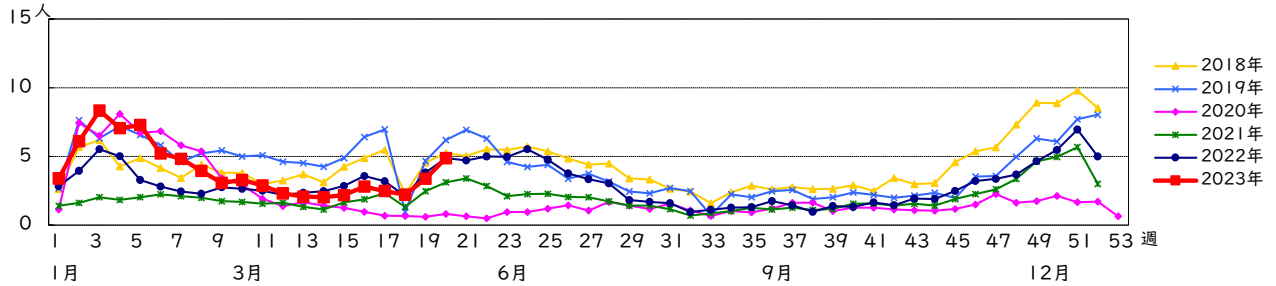
※ 全数把握は、2023年5月7日までですが、5月8日発表分となっています。

報告週対応表	
第17週	4月24日～4月30日
第18週	5月1日～5月7日
第19週	5月8日～5月14日
第20週	5月15日～5月21日

◇ 定点把握の対象

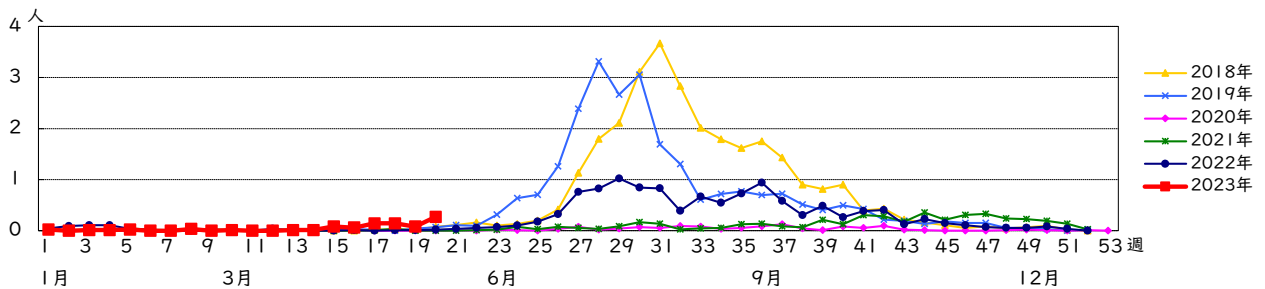
1 感染性胃腸炎:

2023年第3週のピーク(8.33)以降、減少が続いていましたが、第17週2.48、第18週2.22、第19週3.38、第20週4.88と増加しています。



2 ヘルパンギーナ:

2023年第13週0.01から僅かに増加しはじめ、第17週0.14、第18週0.14、第19週0.08、第20週0.27と推移しています。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:1件	淋菌感染症	男性:12件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.25	1.25	0.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月期(2023年第17週～第20週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点1件、基幹定点3件及び定点外医療機関2件でした。

ウイルス分離2株及び各種ウイルス遺伝子24件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2023年第17週～第20週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	二次性TMA	低月齢発熱
コクサッキーウイルスA4型	- 1				
パラインフルエンザウイルス3型	- 1				
アデノウイルス2型	1 -				
アデノウイルス	- 2	- 2			
ライノウイルス	- 1	- 6			
RSウイルス	- 1	- 2			
RSウイルス(サブグループA)		- 1			
RSウイルス(サブグループB)		- 1			
パラインフルエンザウイルス4型		- 1			
ボカウイルス		- 2			
ヒトメタニューモウイルス		- 1			
インフルエンザウイルスB型(ビクトリア)			1 -		
パルボウイルスB19				- 1	
パレコウイルス3型					- 1
合計	1 6	- 16	1 -	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

5月期(2023年第17週～第20週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、侵襲性肺炎球菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌*2件、侵襲性インフルエンザ菌3件、侵襲性肺炎球菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌LPS抗体検査2件、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件でした。

*:感染症法の一部が改正され、令和5年5月26日から「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」が「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に名称変更されました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第17週～第20週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	腸管出血性大腸菌	1	O103 : H2 VT1 (1)	
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	3	O108 : H11 VT1 (1)、O157 : H- VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
		侵襲性インフルエンザ菌	3	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (3)	
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	血漿	腸管出血性大腸菌LPS抗体検査	1	O抗原(O157, O26, O111, O103, O145, O121, O165 等計20種)凝集抗体 陰性 (0)
		血清	腸管出血性大腸菌LPS抗体検査	1	O抗原(O157, O26, O111, O103, O145, O121, O165 等計20種)凝集抗体 陰性 (1)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1	培養陰性 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T12 陽性 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】